

恩とは、自己存在の原因に遡る意識が、自覚に達した状態である。恩の意識は、その源にさかのぼるにある。発還の原理の半面、還元のはたらきである。もとに帰る心の動きである。故に、本をいよいよ本たることを自覚して、尊敬崇拝することである。その本たるや、本を發頭して、末をして末たらしめた力である。(中略) すなわち發還交流がいよいよ活発となり、本に備わるものは、惜し気もなく末に發射される。親を大切にすれば、親の持つものすべてを子に与える。

〔実験倫理学大系〕丸山敏雄著

数年前に大手ホテルチェーンが、二十代から四十代の男女六百名に、親孝行に関するアンケート調査を実施しました。その結果、約七割が「親孝行をしたいと思っているができていない」と回答しています。

倫理法人会で学ぶ純粹倫理では、成功の秘訣である終始一貫ができないのは、継続するエネルギーが乏しいからだと言われます。この精神的エネルギー、働きの原動力こそ「恩の自覚」であるとして重要視します。

\*

Aさんは、知人の結婚式に参列すると、涙がこぼれてしまいます。それは、新婦が両親への手紙を読み上げる場面です。

ある結婚式では、「一人暮らしをして気づきました。いつもお母さんが、私の散らかしたものを片づけていたことを……。家事を



## 親の良いところを真似てみる

きちんとしているお母さんを尊敬しています。いつも明るいお母さんを越えることはできないかもしれないけれど、目標にしています」とメッセージが述べられました。

Aさんは、結婚式に招待されるたびに、「自分は親への感謝の気持ちが届かない。親不幸者だ」と反省するばかりでした。

前述のアンケート結果にもあるように、多くの人が「親に対して何かをしたい」と思っているが、できていないのが現状なのではないでしょうか。

それは、「親を大切にする」ということを、具体的に理解できていないからなのかもしれません。それでは、実際にどのようなようにすればよいのかを考えてみましょう。

たとえば、親の姿を思い出し、心の中に思い浮かんだ親の良い点を、自身の行動に表わすことです。

- ① 小言を言わない父親だった。
- ② お金の心配をさせなかった。
- ③ 子供を本気で叱ってくれた。

このように両親の良いところを挙げれば、①②③のような美点が十個程は出てくるでしょう。その項目は、両親からいただいた、「迫力」や「魅力」として、子である自分にも備わっており、自覚し行動することによって、活発に頭れてくるものです。それが周囲にも伝わり、環境が変わるのです。親の美点を活かして命のバトン繋ぐことは、「親を大切にしている」と共に自身をも大切にしていることになります。自分の家系の魅力を活かしていきたいものです。